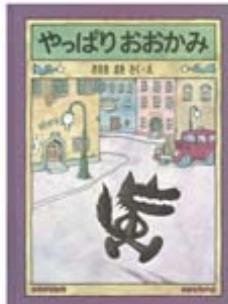


SDGs for School
produced by Think the Earth

⑤

出版社 福音館書店
作・絵 ささき まき

主人公です。おおかみは街のうさぎたちが仲間と一緒に過ごしているのを見て「けつ」とはき捨てます。しかし「なかもがほしいな。でも、うさぎなんかごめんだ。」とつぶやき、悩み続けます。

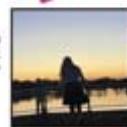
私はこれを読んで、中島敦の小説『山月記』の李徵の孤独を連想しました。作中の「臆病な自尊心」と尊大な羞恥心は、まるで自分に放たれた言葉のように感じました。「山月記」は読むほどに、私の悩みがきれいに言語化されていて、深く共感したのと同時に、若者はだれでも通る道だと、それでの気持ちが片づけられてしまつたようにも感じました。

しかし、「やっぱりおおかみ」は、異種とは一緒に居たくない

気に入りの絵本を紹介します。絵本には、本当にたくさん学びが詰まっていますね。

○ さとこ
・ 高校2年生

私は「やっぱりおおかみ」という絵本を挙げます。この絵本は、ひとりぼっちのおおかみが主



今日は、メンバーお気に入りの絵本を紹介します。絵本には、本当にたくさん学びが詰まっていますね。

私は迷いと不安が、挿絵とセリフで素直に、濃く描かれています。この絵本は、私の迷いに「変わらなくていい」ということをまっすぐ伝えてくれて、自分らしくいることに、自信を与えてくれました。

絵本は子どもに届けるために、はつきりと言葉が示されています。それは、ふと心が疲れたり、自分の気持ちに不安を抱いた時に、もう一度立ち返るべき原点なのではないでしょうか。



○ ののは
・ 高校2年生

私はみなさんに、ヨシタケシンスケさん作の「それしかないわけないでしょ」という本をお勧めします。主人公はある日、お兄ち





しゃくばんしゃ
出版社 白泉社

作・絵 ヨシタケ シンスケ

やんから「未来の世界は大変なことばかりなんだって」と聞かれます。驚いておばあちゃんに相談すると、おばあちゃんは「それしかないわけないでしょ」と、未来にはたくさんの選択肢があることを教えてくれます。私には、この本の中で一番好きなシーンがあります。「おき」でも「きのじ」でもない、「わらじ」があつてもいいわよね」という部分です。私たちちは日々の生活の中で、嫌いなことや、自分とはあまり合わない

いような人と関わらなければいけないこともあります。そんな時、すぐに「嫌い」と突き放すのでなく、この本のように「わらい」という感情くらいにとどめてみて、少しでもお互いが合うところを探してみたり、逆に自分とは違う新しい考え方を知ることができます！と捉えてみたりするのはどうでしょうか。「好き」と「嫌い」の一択のように、今この世界にあるレッテルや言葉や感情、考えだけで答えを導き出さるのでなく、常に「それしかないわけないでしょ」という気持ちを大事にしてみませんか。そして、「すらじ」のような新しい何かが生まれれば、この世の中の対立や戦争をわずかでも減らせる可能性があるかもし



●あおい
高校2年生

れません。私たちのアイデアの可能性は無限大にあります。これから自分たちがどんな「新しい選択肢」を生み出せるかなと考えるだけなんだかつくりしてきます。

私は「おじしおと」という本をみなさんに読んでいただきたいと紹介します。
昨今の世の中では「こしょく」という言葉をよく耳にするようになりました。孤食、固食、凍食、など色々な意味を含んだ言葉です。スマホをしながら一人で、固形食で済ませてしまふ、そんな絵面をよく見かけるようになりました。だからこそ、みなさんにこの絵





ほんを読んでいただきたいです。

思わず絵本の中のご飯を食べたくなってしまうような、そんなたくさんの中の咀嚼音で溢れています。

イラストのタッチも淡く、優しい色合いで描かれており、ほのかと温かい食事の温度感がそのまま伝わってきます。

一人で固形の食べ物で満たすという日もあると思います。でも誰かと暖かな食卓を囲むことの嬉しさをどうか忘れないで



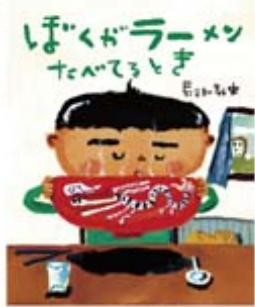
しょっぱんししゃ 出版社
ふくいんかんしょてん 福音館書店
さく 作 絵
三宮 麻由子
ふくしま あきえ

いただきたいたいのです。様々な料理や食材が織りなす幸せな咀嚼音たちがページを捲るごとに待っています。読み終えたとき、きっとあなたは温かいご飯をひとくち一口の咀嚼を楽しみながら大切な人と食べたいと思うでしょう。是非ご一読ください。

ぼくがラーメンを食べているとき、となりの家ではネコがあくびをし、友だちはテレビのチャンネルを変え、おじいちゃんはおふろに入っている。そんな日常のなかにも、世界ではいろんなことが同時に起きている。

この絵本は、「当たり前」の暮らししから想像を広げ、遠い国で働く子や、空腹で苦しむ子どもたちの存在に目を向けて、身近な当たり前に感謝する心や、自分にできる行動の選択を問いかけて、を考えるきっかけとなる絵本です。持続可能な社会の実現に向けて、身近な当たり前に感謝する心を育むことを考へました。

(山藤)



しょっぱんししゃ 出版社
きょうしつくわく 教育画劇
さく 作 絵
長谷川 義史

